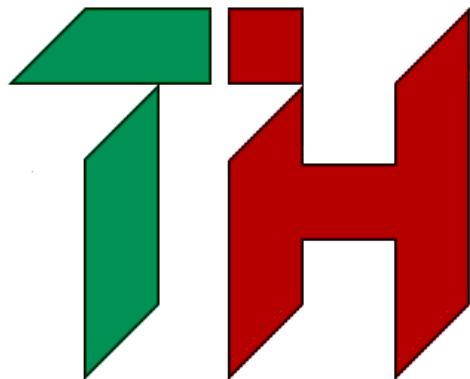


令和 4 年度  
情報公開資料



学校法人伊東学園  
テクノ・ホルティ園芸専門学校



## ① 学校の概要、目標及び計画

### ●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色

#### 建学の精神

若い人たちの夢や希望の実現を手伝うこと

そのために多くの挑戦や失敗を恐れずに経験させ、そこから何らかを学び取ることで感性を磨き、ひいては自信と誇りを持って豊かな社会づくりに貢献できる人材を養成する

#### 教育方針

- ・園芸業界の即戦力、その道のプロフェッショナルとして力を発揮できる人材を養成する
- ・栽培から流通・販売まで、また造園やデザインなども含めてバランスの取れた専門教育を行う
- ・理論の学習だけでなく、実習を通して技術の習熟を図る
- ・多方面に関連する園芸業界の状況に対応できるように、関連分野の教育も行う
- ・発展し変化する園芸業界の現状をふまえて、柔軟に対応できる人材を養成する
- ・社会人にふさわしいマナーや人間性を養成する
- ・若い人の持つ夢や目標を大切にし、その可能性を引き出して育てる教育を行う
- ・就職と共に考え、卒業後は同窓会組織などを通じて応援する

### ●校長名、所在地、連絡先等

法人名 学校法人伊東学園

校 長 伊東政信

所在地 埼玉県行田市埼玉 4758 番地 1 (〒 361-0025)

連絡先 電話 048-559-1187 Fax 048-559-1189

メール saitama-th@ito.ac.jp

ホームページ [www.ito.ac.jp](http://www.ito.ac.jp)

## ●学校の沿革、歴史、学生の出展・受賞歴

1952 昭和27	学園の前身である神田予備校創立(東京都知事認可・各種学校)
1974 49	学校法人の認可を受け学校法人伊東学園を創立
1988 63	テクノ・ホルティ園芸専門学校開校(埼玉県知事認可・専修学校、昼間部、2年制、学年定員80名)
1989 平成1	文部省より職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける(3年間) 文部省主催、全国農業高等学校長協会の委託により高等学校産業教育実技講習会を実施 映画「千利休」(勅使河原宏監督)のために原種のアサガオを提供
1990 2	学年定員を110名に学則変更 国際花と緑の博覧会に「花と動物たちのふるさと」を出展。優秀賞・金賞を受賞 埼玉県知事 畠和氏が視察のために来校
1992 4	ジャパン フラワー フェスティバルに出展。金賞を受賞 全国造園建設業協会主催の全国デザインコンクールに2名入選 文部省より職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける(2回目、3年間)
1996 8	(社)園芸文化協会主催文化展にコンテナガーデンを出展。文部大臣賞を受賞 農林水産省の委託により就農準備教育を実施(平成15年まで)
1997 9	3年制課程スタート(園芸2類学科、昼間部、3年制、学年定員40名)／ 第二校舎完成 アメリカ・フィラデルフィア・フラワーショウに日本庭園を出展。銀賞を受賞 文部省より、職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける 造園CADシステムの操作、造園用小型土木機械操作、熱帯植物栽培マニュアルの研究を行う 同じく、職業人再教育推進事業の委託を受ける ガーデナー養成講座を実施。新植木職・ガーデナー養成マニュアルを作成 高校生フラワーデザイン・園芸装飾コンテストを開催(平成19年まで)
1998 10	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校開校(東京・御茶ノ水) 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1を受賞(宇都宮) (社)日本家庭園芸普及協会より出展作品に関する感謝状を受領
1999 11	タイ国ラヨン県に熱帯植物栽培実習センターを開所 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1・銀賞1・銅賞1、敢闘賞2を受賞(静岡大会) 労働省委託 失業者を対象とした職業訓練を実施(平成14年まで) 文部省の委託によりチャイルドスクールを実施(以降、自主開催を含めて平成22年まで実施) (社)日本フラワーデザイナー協会より資格試験の普及に関する感謝状を受領
2000 12	タイ国文部省よりラヨン熱帯植物栽培学校が設置認可を受ける 技能五輪全国大会・造園部門において銀賞2、フラワー装飾部門において銅賞1、敢闘賞3を受賞(埼玉大会)
2001 13	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、銅賞1、敢闘賞2を受賞(福島大会) 静岡国際園芸博覧会に出展。最優秀賞、優秀賞を受賞 ジャパン フラワー フェスティバル(JFF)・フラワーアレンジ部門に出展。金賞を受賞 ジャパン ガーデニング フェアに出展。優秀賞を受賞
2002 14	世界らん展日本大賞 フラワーデザイン審査部門ブーケの部に出展。優秀賞を受賞 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銅賞1を受賞(熊本大会) 花園フラワーショーにコンテナガーデン他を出品。金賞、銀賞他計6つの賞を受賞 JFF金賞受賞者が国際園芸博覧会の日本政府出展会場にオリジナル作品を展示 文部科学省委託 産学連携による専修学校高度職業人育成総合プロジェクトを実施 同じく、専修学校キャリアアップ教育推進事業を実施
2003 15	技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞2、フラワー装飾部門において敢闘賞1を受賞(新潟大会) 全国造園デザインコンクール大学生の部 作品・実習部門で入選1、児童公園部門で佳作1を受賞 花園フラワーショーのフラワー装飾、インドアグリーン、造園、コンテナガーデン各部門で金賞、銀賞、銅賞他を受賞 (社)全国学校農場協会主催の農業実験実習講習会を実施(フラワーデザイン、園芸療法)
2003 平成15	文部科学省委託 専修学校先進的教育研究開発事業、キャリアアップ教育推進事業を実施

2003	平成15	農林水産省の委託により新JUターン就農促進対策事業を実施 中央職業能力開発協会より職業能力開発に関する感謝状を受領
2004	16	技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞1(2人ペア)、フラワー装飾部門において敢闘賞1を受賞(岩手大会) 埼玉県知事上田清司氏より屋上緑化フェアの協力に関する感謝状を受領 同じく、彩の国5つのふれあい県民運動への取り組みに関する表彰状を受領
2005	17	ウイム・ハゼラー・トロフィーを開催 技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞1を受賞(山口大会) 花園フラワーショーのフラワー装飾、インドアグリーン、造園、コンテナガーデン各部門でグランプリ、金賞、銀賞、銅賞他を受賞 厚生労働大臣より技能検定への協力に関する感謝状を受領
2006	18	園芸文化協会との協業により実戦園芸塾を開講 日比谷公園ガーデニングショー・ベランダガーデン部門に出品。金賞、来場者人気投票1位を受賞
2007	19	ジャパン フラワー フェスティバルに出品。金賞を受賞 埼玉県知事上田清司氏が視察のために来校
2009	21	厚生労働省が提唱する失業者のための職業訓練を実施(平成27年度まで) 農林水産省の委託により就農準備教育を実施(最終年)
2010	22	世界らん展日本大賞 フラワーデザイン審査部門に出展。トロフィー賞を受賞 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1を受賞(神奈川大会) 文花祭に行田市教育委員会の後援を得る(以降、毎年) 関東商工会議所連合会よりベストアクション表彰を受領
2011	23	東日本大地震が発生。行田市主催のボランティアに計4回参加 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において敢闘賞2つを受賞(静岡大会)
2013	25	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞2、敢闘賞1を受賞(千葉大会) 全国障害者技能競技大会(アビリンピック)・フラワーデザイン部門で金賞1を受賞 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞を受賞
2014	26	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1、銀賞1、敢闘賞1を受賞(愛知大会) 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞・埼玉県知事賞を受賞 埼玉県の委託により小学生対象のフラワーデザイン教室「夢のかけ橋」を実施(以降、毎年)
2015	27	第43回技能五輪国際大会World Skills Floristry Sao Pauloへ埼玉校研修生が出場 フラワーデザインの花材用テキストとして「花屋さんの花事典」(ナツメ社)を監修・出版
2016	28	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、敢闘賞2を受賞(山形大会) 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞・深谷市長賞を受賞
2017	29	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、銅賞1、敢闘賞1を受賞(栃木大会) 埼玉県職業能力開発協会より技能五輪全国大会への協力に関する感謝状を受領 全国農業会議所より農業次世代人材投資事業(準備型)の全国教育機関として認定される 農業次世代人材投資事業に応募した6名全員への交付が決定
2018	30	開校30周年記念同窓会を開催し、約500名の卒業生が来場 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1、銀賞1を受賞(沖縄大会) 金賞受賞者は、技能五輪国際大会(2019年8月ロシア・カザン)に出場
2019	31	職業実践専門課程の認定を受ける(園芸1類学科) 農業における生産工程管理(埼玉県版 S-GAP)の認証を受ける(栽培品目コマツナ)
令和1		行田市のオープンガーデンに初参加 第45回技能五輪国際大会World Skills Floristry Russia Kazan大会へ埼玉校卒業生が出場 高等教育の修学支援新制度(高等教育無償化)に認定される
2010	2	専門実践教育訓練給付金の講座指定を受ける(全コース) 新型コロナウイルス感染症対策として、入学式の延期や授業開始時刻の変更、各種行事の変更などを行う
2021	3	コロナ感染症対策を万全にして、卒業作品展、卒業式を実施する 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞を受賞(東京大会)

## ② 各学科（コース）等の教育

### ●入学者に関する受入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数

次に例示する素養を持った人物を、募集要項に基づいて募集している。

(この際、出願前に来校するなどして、本校に対する理解を深めることを求めている)

- ・花や緑の持つ素晴らしさを楽しむことができる人
- ・花と緑の素晴らしさを人々に知らせることを望む人
- ・花と緑を使って人に安らぎや癒しを与えることを望む人 など

農業専門課程、園芸 1 類学科、2 年制課程

募集定員：80 名

収容定員：160 名

学科・コース・専攻	令和 4 年度		令和 3 年度			令和 2 年度		
	入学	在籍	入学	在籍	退学	入学	在籍	退学
園芸 1 類学科	59 名		47 名			57 名		
花き生産コース *		13 名		11 名	1 名		10 名	
野菜生産コース *		21 名		13 名			8 名	
グリーンコーディネートコース *		19 名		18 名			17 名	2 名
フラワーコーディネートコース *		36 名		36 名	1 名		37 名	1 名
造園コース *		16 名		23 名	1 名		20 名	

在籍者数は各年度 5 月 1 日時点。

但し、コースへ所属する時期は 1 年次の後期からであるため、入学時の希望による。

退学者数は、学年を問わず年度を通じて退学した人数を記し、前期に退学した者はコースでの退学者として記していない。

### ●カリキュラム

教育目標（育て上げようとする人物像）

- ・企業から喜んで迎え入れてもらえる人材
- ・花と緑を通じて人に豊かな気持ちや安らぎ、心地良い環境を提供できる即戦力たる人材
- ・働くことに夢と誇り、やりがいを感じることのできる人材
- ・常に向上心と自らの目標に関する事柄に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らない人材
- ・将来のオーナーやデザイナー、第一線で活躍を目指そうとする人材

<カリキュラム・科目表>

(農業専門課程 園芸1類学科 花き生産コース) 令和4年度									
分類 必選 必修 選択 修習	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携 実務経験のある教員
					講義	演習			
○	園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○	○
○	花と緑の商品知識 I	鮮花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○	○
○	花と緑の商品知識 II	鮮花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○	○
○	分類・形態学	園芸植物の分類や形態について基本的に学習する。	1前	15	0.5	○		○	○
○	分類・形態各論	園芸植物の分類や形態について応用的に学習する。	1後	15	0.5	○ △	○	○	○
○	土壤肥料学	土壤や肥料の基礎や土壤改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△ ○	○	○
○	土壤肥料各論	花き生産における土壤、肥料、施肥などについて学習する。	1通	15	0.5	○		○	○
○	病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○	○
○	病理害虫各論	花き生産における病害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○	○
○	植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△ ○	○	○
○	園芸実習 I	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○ ○	○	○
○	園芸実習 II	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○ ○	○	○
○	育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△ ○	○	○
○	グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○ △	○	○	
○	園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○ ○ ○ ○	
○	デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○ △	○	○ ○ ○ ○	
○	フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○ △	○	○ ○ ○ ○	
○	造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	花き園芸基礎	寄せ植え、花壇作成、基本的な農業機械の扱いなど様々な園芸作業を学習する。	1前	60	2	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	花き生産技術 I	花き生産の基礎から応用を学習する。	1後	60	2	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	花き生産技術 II	花き生産の基礎から応用を学習する。	2通	240	8	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	商品制作 I	植物を使用した商品の制作について学習する。	1後	15	0.5	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	商品制作 II	植物を使用した商品の制作について学習する。	2通	30	1	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	生産販売流通 I	生産物の出荷、流通の仕組みを学習する。	1後	30	1	△	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	生産販売流通 II	生産物の出荷、流通の仕組みを学習する。	2通	60	2	△	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	施設管理 I	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	1後	15	0.5	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	施設管理 II	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	2通	60	2	△	○ ○	○ ○ ○ ○	
○	花き育種・繁殖 I	花きについての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	1後	30	1	○	△ ○	○ ○ ○ ○	
○	花き育種・繁殖 II	花きについての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	2通	60	2	○	△ ○	○ ○ ○ ○	
○	生育・開花調節概論	花き生産における開花調整の手法を学習する。	2通	30	1	○	△ ○	○ ○ ○ ○	
○	農業機械 I	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1後	15	0.5	△	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	農業機械 II	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	2通	30	1	△	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	マーケティング I	農業や園芸にかかるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○ △	○ △ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	マーケティング II	農業や園芸にかかるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○ △	○ △ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	農業簿記 I	農業簿記の基本的な知識を学習し、農業簿記検定3級の受験を目指す。	1通	30	1	○ △	○	○ ○ ○ ○	
○	農業簿記 II	農業簿記検定2級の受験を目指す。	2通	30	1	○ △	○	○ ○ ○ ○	
○	花き輸出入概論	花きの輸出入に関する基本的な知識を学習する。	2通	30	1	○ △	○	○ ○ ○ ○	
○	卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	180	6	△ ○ △ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2		○ ○	○ ○ ○ ○	
○	管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1通	60	2		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	2通	60	2		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
○	選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△	○ ○	○ ○ ○ ○	△
○	資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△ △ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	△
合 計					2460	82			
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数(但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く)						1725	57.5		

卒業要件及び履修方法

授業期間等

各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上(2年間で2,460単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	15週

## (農業専門課程 園芸1類学科 野菜生産コース) 令和4年度

分類 必 修 必 修 選 択 修 修 選 択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法 講義 演習 実習・実技	場所 校内 校外	教員 兼任 担任	企業等との連携	実務経験のある教員
○	園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○	○
○	野菜生産各論Ⅰ	各種野菜の分類、作型、栽培、管理方法について学習する。	1通	60	2	○	△	○	○
○	野菜生産各論Ⅱ	各種野菜の分類、作型、栽培、管理方法について学習する。	2前	30	1	○	△	○	○
○	分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○	○
○	土壤肥料学	土壤や肥料の基礎や土壤改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○
○	土壤肥料各論	野菜生産における土壤、肥料、施肥などについて学習する。	1通	15	0.5	○	△	○	○
○	病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○	○
○	病理害虫各論	野菜生産における病害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○	○
○	植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○
○	園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○	○
○	園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○	○	○
○	育種・繁殖	植物の育種や繁殖、管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○
○	グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○	○
○	ビジネススマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△	○	○
○	園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○	○
○	デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△	○	○
○	フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○	○	○
○	カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○
○	造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△	○	○	○
○	野菜生産技術Ⅰ	野菜生産の基礎から応用を学習する。	1通	135	4.5	△	○	○	○
○	野菜生産技術Ⅱ	野菜生産の基礎から応用を学習する。	2通	240	8	△	○	○	○
○	次世代農業Ⅰ	植物工場などの次世代農業について学習する。	1後	30	1	○	△	○	○
○	次世代農業Ⅱ	植物工場などの次世代農業について学習する。	2通	30	1	○	△	○	○
○	販売技術Ⅰ	野菜の販売を行なうまでの調整、販売方法を学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○
○	販売技術Ⅱ	野菜の販売を行なうまでの調整、販売方法を学習する。	2通	45	1.5	△	○	○	○
○	野菜育種・繁殖Ⅰ	野菜についての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○
○	野菜育種・繁殖Ⅱ	野菜についての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	2前	45	1.5	△	○	○	○
○	食品加工論Ⅰ	安全衛生を含めた野菜の加工方法について学習する。	1後	15	0.5	○		○	○
○	食品加工論Ⅱ	安全衛生を含めた野菜の加工方法について学習する。	2後	15	0.5	○		○	○
○	加工実習Ⅰ	漬物や干し野菜などの加工や野菜の特性を活かした調理方法を学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○
○	加工実習Ⅱ	漬物や干し野菜などの加工や野菜の特性を活かした調理方法を学習する。	2後	15	0.5	△	○	○	○
○	農業機械Ⅰ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○
○	農業機械Ⅱ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	2通	45	1.5	△	○	○	○
○	野菜栄養学	野菜の栄養学について学習する。	2後	15	0.5	○		○	○
○	施設管理	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	2後	30	1	△	○	○	○
○	野菜栽培指導法	園芸教室や家庭菜園、市民農園などでの指導法について学習する。	2後	15	0.5	○	△	○	○
○	有機農法概論	有機農法の基本的な知識を学習する。	2前	30	1	○	△	○	○
○	マーケティングⅠ	農業や園芸にかかるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○
○	マーケティングⅡ	農業や園芸にかかるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○	△	○	○
○	農業簿記Ⅰ	農業簿記の基本的な知識を学習し、農業簿記検定3級の受験を目指す。	1通	30	1	○	△	○	○
○	農業簿記Ⅱ	農業簿記検定2級の受験を目指す。	2通	30	1	○	△	○	○
○	農業英語	農業や園芸に関わる専門的な英語を学習する。	2後	15	0.5	○	△	○	○
○	卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	180	6	△	○	○	○
○	インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2		○	○	○
○	管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	2通	60	2		○	○	○
○	校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	60	2		○	○	○
○	選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	2通	60	2		○	○	○
○	資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○	○
	合 計			2460	82				
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数(但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く)				1725	57.5				

## 卒業要件及び履修方法

## 授業期間等

各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上(2年間で2,460単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。

1学年の学期区分 2期

1学期の授業期間 15週

(農業専門課程 園芸1類学科 グリーンコーディネートコース) 令和4年度										
分類 必修 選択必修 修習	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	授業単位数	授業方法 講義 演習 実験・実習・実技	場所 校内 校外	教員 専任教員 兼任教員	企業等との連携	実務経験のある教員
○	園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○	○	○	○	○
○	花と緑の商品知識I	鉢花、切花、盆木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○	○	○	○	○
○	花と緑の商品知識II	鉢花、切花、盆木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○	○	○	○	○
○	分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○	○	○	○	○
○	土壤肥料学	土壤や肥料の基礎や土壤改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	病理害虫学	植物に関する病害や害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	○	○	○	○
○	植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	園芸実習I	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○	○	○
○	園芸実習II	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○	○	○	○
○	育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○	△	○
○	ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△	○	○	
○	園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○	○	○	○	○
○	デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○	カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○	植物管理技術I	校内で管理している見本植物を用いて、分類や管理のポイントを学習する。	1通	60	2	△	○	○	○	○
○	植物管理技術II	校内で管理している見本植物を用いて、分類別に維持管理と繁殖等を行う。	2通	90	3	△	○	○	○	○
○	施設管理I	植物の適切な管理を行うための温室や商場の環境整備を行う。	1後	30	1	△	○	○	○	○
○	施設管理II	植物の適切な管理を行うための温室や商場の環境整備を行う。	2通	60	2	△	○	○	○	○
○	グリーンサービス基礎	グリーンサービスに関する観葉植物の扱いを学習する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○	グリーンコーディネート実践I	装飾作品の校内、商業施設での展示やコンテストへ出展するための一連の流れを学習する。	1後	120	4	△	○	○	○	○
○	グリーンコーディネート実践II	装飾作品の校内、商業施設での展示やコンテストへ出展するための一連の流れを学習する。	2通	300	10	△	○	○	○	○
○	特殊空間緑化	屋上緑化、屋内緑化、壁面緑化の基礎を学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○	ガーデニング	ガーデンの設計や施工、コンテナガーデンやハンギングバスケットの制作を学習する。	2前	30	1	△	△	○	○	○
○	インテリア商品制作I	観葉植物を用いた商品制作やその配置について学習する。	1後	30	1	○	△	○	○	○
○	インテリア商品制作II	観葉植物を用いた商品制作やその配置について学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○	植物販売技術I	陳列やPOPなどを中心に販売促進の基礎を学習する。陳列等を含めた園芸店やガーデンセンターでの販売促進や仕入れから販売までの流れを学習する。	1後	30	1	○	△	○	○	○
○	植物販売技術II	陳列やPOPなどを中心に販売促進の基礎を学習する。陳列等を含めた園芸店やガーデンセンターでの販売促進や仕入れから販売までの流れを学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○	マーケティングI	農業や園芸にかかるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○	△	○	△	○
○	マーケティングII	農業や園芸にかかるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○	△	○	△	○
○	園芸指導技術	園芸講座の計画から運営までを実践的に学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○	卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	150	5	△	○	△	○	○
○	インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2		○	○	○	○
○	管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	2通	60	2		○	○	○	○
○	校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	60	2		○	○	○	○
○	選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。 <td>2通</td> <td>120</td> <td>4</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td>	2通	120	4		○	○	○	△
○	資格取得	園芸技術士、造園技術士、フロア装飾技術士、商品装飾展示技術士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○	○	○
○	合計			2460	82					
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数(但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く)										
1725 57.5										
卒業要件及び履修方法								授業期間等		
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上(2年間で2,460単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。								1学年の学期区分	2期	
								1学期の授業期間	15週	

(農業専門課程 園芸 1類学科 フラワーコーディネートコース) 令和4年度											
分類 必選 必修 選択 必修 選択	授業科目名	授業科目概要				配当年次・学期 授業時数	授業方法 講義 実習	場所 校内 校外	教員 兼任 担任	企業等との連携 実務経験のある教員	
		単位数	実習・実践・実技								
○	園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○	○	○	
○	花と緑の商品知識 I	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○	○	○	
○	花と緑の商品知識 II	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○	○	○	
○	分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○	○	○	
○	土壤肥料学	土壤や肥料の基礎や土壤改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○	
○	病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○	○	○	
○	植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○	
○	園芸実習 I	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○	○	○	
○	園芸実習 II	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	45	1.5	△	○	○	○	○	
○	育種・繁殖	植物の育種や繁殖、管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○	
○	グリーンコーディネート	緑葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○	△	○	
○	ビジネスマナー I	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△	○	○		
○	ビジネスマナー II	冠婚葬祭のマナー等について学習する。	2通	15	0.5	○	△	○	○		
○	園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触しながら学習する。	1前	30	1	○		○	○	○	
○	フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1通	120	4	△	○	○	○	○	
○	デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△	○	○	○	
○	カラーコーディネート I	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○	
○	カラーコーディネート II	カラーコーディネートの応用としてアレンジメント等を作成する。	2前	30	1	○	△	○	○	○	
○	造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や概念を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△	○	○	○	○	
○	フラワーデザイン応用	ヨーロピアンスタイルなど基礎を基にした様々な作品制作技術を習得する。	2通	180	6	△	○	○	○	○	
○	フラワーデザイン実践 I	いろいろなスタイルのアレンジメントや花束の制作技術を習得する。	1後	60	2	△	○	○	○	○	
○	フラワーデザイン実践 II	イベントや学校外での装飾技術を計画から作成まで一連の流れを通して学習する。	2通	90	3	△	○	○	○	○	
○	商品知識 I	切り花や鉢物の商品知識を学習する。	1通	30	1	△	○	○	○	○	
○	商品知識 II	切り花や鉢物の商品知識を学習する。	2通	45	1.5	△	○	○	○	○	
○	ショップビジネス I	店舗運営に関する知識、技術(接客、陳列、経営など)を実習を交えながら習得する。	1通	30	1	△	○	○	○	○	
○	ショップビジネス II	店舗運営に関する知識、技術(接客、陳列、経営など)を実習を交えながら習得する。	2通	90	3	△	○	○	○	○	
○	商品企画制作 I	母の日やクリスマスなどイベント時の商品制作について計画から学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○	○	
○	商品企画制作 II	母の日やクリスマスなどイベント時の商品制作について計画から学習する。	2通	120	4	△	○	○	○	○	
○	空間装飾 I	広い空間での植物を使用した装飾技術を習得する。	1後	45	1.5	△	○	○	○	○	
○	空間装飾 II	広い空間での植物を使用した装飾技術を習得する。	2通	120	4	△	○	○	○	○	
○	ブライダルフラワー I	ブーケや車上花などのブライダル関連の商品制作やマナーについて学習する。	1後	30	1	△	○	○	○	○	
○	ブライダルフラワー II	ブーケや車上花などのブライダル関連の商品制作やマナーについて学習する。	2通	45	1.5	△	○	○	○	○	
○	フェニーラルフラワー	祭壇などの葬儀関連の商品制作やマナーについて学習する。	2前	30	1	△	○	○	○	○	
○	ビジネス文書	ビジネス文書作成について学習する。	1通	15	0.5	○	△	○	○	○	
○	簿記	簿記の基本的な知識を学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○	
○	インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2		○	○	○	○	
○	管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	2通	60	2		○	○	○	○	
○	校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	60	2		○	○	○		
○	選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	2通	60	2		○	○	○		
○	資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワーアーティスト、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1後	30	1	△	○	○	○	△	
○			2後	30	1	△	○	○	○	△	
○			1通	120	4	△	△	○	○	○	
○			2通	120	4	△	△	○	○	○	
合 計				2460	82						
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数(但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く)											
1710 57											

## 卒業要件及び履修方法

## 授業期間等

各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上(2年間で2,460単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	15週

(農業専門課程 園芸1類学科 造園コース) 令和4年度

分類 必 選 択 必 修 修 択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携	実務経験のある教員
					講義	演習				
○	園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○	○	○
○	花と緑の商品知識Ⅰ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○	○	○
○	花と緑の商品知識Ⅱ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○	○	○
○	分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○	○	○
○	土壤肥料学	土壤や肥料の基礎や土壤改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	病理害虫学	植物に襲わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○	○	○
○	植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○	○	○
○	園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○	○	○	○
○	育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○	△	○
○	ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△	○	○	
○	園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触ながら学習する。	1前	30	1	○		○	○	○
○	デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○	カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	造園基礎知識	造園に関する基本的な知識を学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	造園基礎技術	造園に関する基本的な技術を学習する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○	造園概論	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	造園計画	図面の描き方、記号の表記方法、道具の使用方法、図面の読み取り方法等について学習する。	1後	90	3	○	△	○	△	○
○	造園施工Ⅰ	造園施工の基礎から応用までの必要な知識、技術を学習する。	1後	60	2	△	○	○	○	○
○	造園施工Ⅱ	造園施工の基礎から応用までの必要な知識、技術を学習する。	2通	180	6	△	○	○	○	○
○	造園管理Ⅰ	施工を行なう上での必要経費の積算方法や、病害虫防除を含めた施工後の庭園の管理について学習し、実際に管理実習も行う。	1後	60	2	△	○	○	○	○
○	造園管理Ⅱ	施工を行なう上での必要経費の積算方法や、病害虫防除を含めた施工後の庭園の管理について学習し、実際に管理実習も行う。	2通	180	6	△	○	○	○	○
○	樹木学Ⅰ	樹木の名称や、特徴、見分け方などを学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	樹木学Ⅱ	樹木の名称や、特徴、見分け方などを学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○	装飾技術	寄せ植えなどの植物を使用した装飾技術について学習する。	1後	30	1	△	○	○	△	○
○	造園設計	図面作成を行いながら、設計について学習する。	2前	60	2	△	△	○	△	○
○	造園材料	石や砂、竹、芝など造園に必要な材料の知識とそれらの扱いについて学習する。	2後	60	2	△	○	○	○	○
○	環境緑化	都市緑化や生態系など造園に関わる環境や緑化技術について実習や調査を交えながら学習する。	2前	45	1.5	△	○	○	△	○
○	フィールドワーク	実際に校外での観察を行い、自然環境での植生や生態系について学習する。	2通	45	1.5		○	○	○	○
○	測量	平板測量やトランシットについて学習する。	2前	60	2	△	△	○	○	○
○	課題学習	造園に関する問題を解決するための課題を設定し、調査、研究してみる。	2通	120	4	△	○	△	○	○
○	インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2		○	○	○	○
○	管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	2通	60	2		○	○	○	○
○	校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4		○	○	○	
○	選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△	○	○	○	△
○	資格取得	園芸装飾技能士、造園技能士、フラワーデザイン技能士、商品装飾展示技能士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	2後	30	1	△	○	○	○	△
合 計					2460	82				
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数(但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く)					1725	57.5				

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上(2年間で2,460単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。			1学年の学期区分	2期
			1学期の授業期間	15週

●教育課程編成委員会

<花き生産コース、グリーンコーディネートコース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
田澤 信二	(一社) 農業電化協会 代表理事 植物工場普及協会 名誉会長	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	①
蓮沼 清光	埼玉県インドアグリーン協会 前理事長 日彰商事(株) 代表取締役	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	①
島田 守	鴻巣花き(株) 代表取締役 (一社) 日本花き卸売市場協会 監事	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
吉田 誠	(有) 吉田園芸 代表取締役 (一社) 日本花き生産協会 理事 埼玉県花き園芸組合連合会 会長	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
村井 千里	同 名誉校長、教授		—
古谷 民子	同 教務部長		—
萩原 文雄	同 花き生産コース コース長、実習農場 農場長		—
伊藤 弘充	同 グリーンコーディネートコース コース長 実習農場 農場長代理		—

<野菜生産コース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
田澤 信二	(一社) 農業電化協会 代表理事 植物工場普及協会 名誉会長	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	①
金沢 充	富士食品工業(株) 農産部長	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
村井 千里	同 名誉校長、教授		—
古谷 民子	同 教務部長		—
湯本 達夫	同 野菜生産コース コース長、教授		—
齋藤 仁	同 野菜生産コース		—
萩原 文雄	同 花き生産コース コース長、実習農場 農場長		—

<フラワーコーディネートコース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
立川 瞳	(一社) 全国技能士会連合会 理事 (一社) 埼玉県技能士会連合会 会長 埼玉県職業能力開発協会 理事・審議員埼玉県フラワーアート技能士会 前会長	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	①
向江 正智	株式会社 日比谷花壇 人材開発部 チーフ	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
古谷 民子	同 教務部長		—
柿沼 真吾	同 フラワーコーディネートコース コース長		—
橋詰 保奈美	同 フラワーコーディネートコース 主任		—

<造園コース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
高橋 康夫	(一社) 日本庭園協会 会長 (公財) 東京都公園協会 公園事業部 花と緑の市民カレッジ 事務局 元事務局長	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	①
由比 誠一郎	(株) 誠和造園 代表取締役 (一社) 日本庭園協会 東京都支部 委員	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
中山 秀一	(株) 水庭農園 環境技術部 部長 樹木医	R3. 4. 1. ~ R5. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
古谷 民子	同 教務部長		—
細井 薫	同 造園コース 副コース長		—
布施 浩一	同 造園コース 主任		—

●進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・修了の認定基準等）

- ① 1コマ=90分を半期15週で完結する授業を1単位とする
- ② 進級・卒業のためには、各コースで定める単位を修得することが必要である
- ③ 成績は、前期末と後期末の定期試験（筆答、口答、レポート、実技）の結果に加えて、出席状況や学習態度等を加味して評価する
- ④ 成績評価で59点以下のものは評定が不可、単位は不認定となる
- ※ 定期試験の結果が60点に満たない場合は再試験となる
- ※ 出席時数が、各科目の授業時間数の3分の2に満たない場合は、定期試験を受験するために補講を受けなければならない
- ※ 年次毎に後期末の評価が終了した時点で10単位以上の不認定科目がある場合は留年もしくは卒業延期となる

評価	100~80点	79~70点	69~60点	59点以下
評定	優	良	可	不可
判定	合 格			不合格
単位	認 定			不認定

●学習の成果として取得を目指す資格と合格等の実績

資格名	級	令和3年度			令和2年度		
		受検者数	合格者数	内・金賞	受験者数	合格者数	内・金賞
園芸装飾技能士	2級	29名	28名	1名	—	—	—
	3級	11名	11名	4名	—	—	—
造園技能士	2級	15名	15名	—	4名	4名	1名
	3級	4名	4名	1名	13名	13名	6名
フラワー装飾技能士	2級	12名	12名	1名	23名	22名	1名
	3級	12名	11名	—	8名	8名	1名
商品装飾技能士	3級	8名	8名	—	8名	8名	—
日本農業技術検定	2級	6名	4名	—	1名	1名	—
	3級	13名	11名	—	7名	6名	—
リテールマーケティング（販売士）	3級	—	—	—	5名	4名	—
色彩検定	2級	13名	12名	—	9名	8名	—
	3級	15名	7名	—	14名	12名	—
土壤医検定	3級	—	—	—	3名	3名	—
POP広告クリエイター	—	11名	11名	—	8名	8名	—

※令和2年度の園芸装飾技能士の試験は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

・技能講習などにより取得を目指すもしくは取得できる資格

グリーンアドバイザー／グリーンマスター／小原流本科／大型特殊自動車免許（農耕車限定）

玉掛け技能者／小型移動式クレーン運転技能者／危険物取扱者　他

●卒業者数、卒業後の進路（進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先）

コース・専攻	令和3年度				令和2年度			
	卒業者	就職者	未定者	他業種進学等	卒業者	就職者	未定者	他業種進学等
花き生産コース	4名	4名	—	—	4名	4名	—	—
野菜生産コース	6名	6名	—	—	3名	3名	—	—
グリーンコーディネートコース	8名	8名	—	—	7名	6名	1名	—
フラワーコーディネートコース	19名	19名	—	—	17名	13名	2名	2名
造園コース	15名	14名	1名	—	4名	4名	—	—

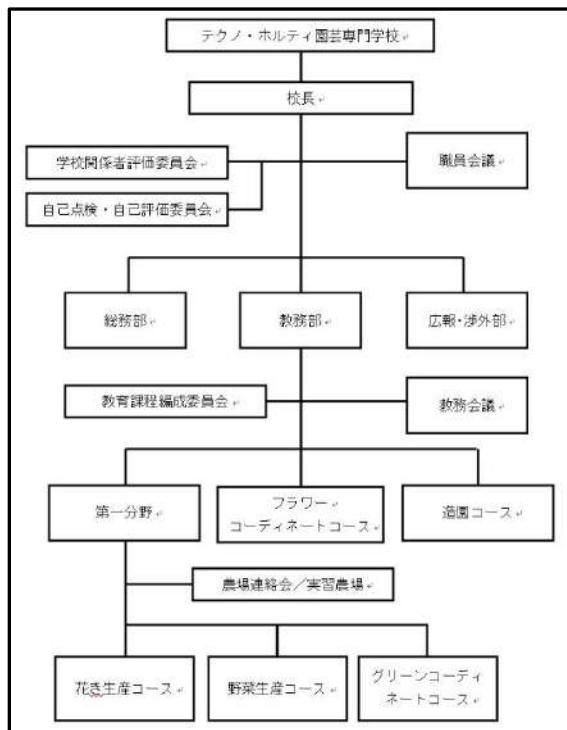
<令和3年度卒業生の主な就職先>

大森プランツ㈱、上野村森林組合、ジャパン・ミネラルファーム㈱、㈱高崎松風園、富士食品工業㈱、㈱北本グリーンセンター、公益社団法人埼玉県農業公社、㈱しゅん・あぐり、㈲ディイ葬儀社、㈱矢口造園、㈱グリーンアンドアーツ、㈲麻布植祐、㈱花門フラワーゲート、㈱日植ガーデン、㈱野沢園、㈲蓮や鈴木造園、㈱フレシード、㈱ユ一花園、㈱リベルテ、㈲エイチアンドエルプランテーション、㈱庭蒼、㈱プラネット、他

### ③ 教職員

#### ●教職員数と組織

区分	専任	非常勤 嘱託等	非常勤	計
校長	1	—	—	1
副校長	—	—	—	—
教員	11	2	—	13
助手	—	—	—	—
講師	—	—	66	66
事務職員	4	—	—	4
その他職員	—	—	9	9



#### ●教職員の専門性

区分	主な担当科目、授業内容	専門性 有資格・業界との関係等
専任	園芸流通、ビジネスマナー	校長
専任(嘱託)	園芸流通	広報・渉外担当
専任	ビジネスマナー	教務部長、リテールマーケティング（販売士）1級、色彩検定1級、カラーコーディネーター1級、7Jファシリテータ、グリーンアドバイザー、ジョブカード作成アドバイザー
非常勤嘱託	花き生産技術	名誉校長、元埼玉県園芸試験場長、園芸文化賞受賞 著作「切花栽培 技術マニュアル」ほか多数
専任	園芸実習、花き生産技術	花き生産コース長、農場長、7Jファシリテータ、花き生産者
専任(嘱託)	野菜生産実習	野菜生産コース長 元埼玉県農業大学校勤務
専任(嘱託)	野菜生産実習	
非常勤嘱託	野菜生産各論	元埼玉県東松山農林振興センター 農業支援部長、農業改良普及員
専任	グリーンコーディネート、卒業研究	グリーンコーディネートコース長、教務次長、1級園芸装飾技能士、職業訓練指導員（園芸科）、7Jファシリテータ、元園芸生産社勤務
専任	フラワーデザイン、フラワービジネス	フラワーデザインコース長、教務次長、1級フラワー装飾技能士、職業訓練指導員（フラワー装飾科）、7Jファシリテータ、元生花店勤務
専任(嘱託)	造園基礎知識、課題学習	教務次長、造園副コース長、グリーンアドバイザー、福祉住環境コーディネーター2級、屋上緑化コーディネーター、自然観察指導員、ガーデンデザイナー
専任	フラワーデザイン、フラワービジネス	教務主任、フラワーコーディネートコース担当、2級フラワー装飾技能士、元生花店勤務
専任	造園施工	教務主任、1級造園技能士、元造園会社勤務
専任	園芸実習	教務係、東京農業大学卒業

非常勤講師 または委託	園芸流通	公社) 園芸文化協会 事務局長
"	園芸流通	一社) 日本庭園協会 会長
"	園芸流通	(株) サカタのタネ コーポレートコミュニケーション部長
"	園芸流通	(株) 誠文堂新光社月刊フローリスト 編集長
"	園芸流通	(株) 花弘 営業企画室 ヒューマンリソース担当課長
"	園芸流通	(株) 京橋花き 専務取締役
"	園芸流通	さいたまヨーロッパ野菜研究会 主幹
"	園芸流通	パナプラス(株) 代表取締役
"	園芸流通	(株) イケガミ 営業部長
"	園芸流通	花き生産や園芸教室の指導に従事
"	園芸流通	公社) 園芸文化協会 元事務局長
"	園芸文化論	コンスタンス・スプライ・フラワースクール サーティファイケイトコース修了
"	分類・形態学	(株) フラワーオークションジャパン 取締役
"	病理害虫学	住友化学園芸(株)、元研究開発部長
"	病理害虫各論	住友化学園芸(株) 元普及部長
"	土壤肥料学、(資格) 日本農業技術検定	首都圏土壤医の会 会長
"	花と緑の商品知識、フィールドワーク	財) 埼玉県生態系保護協会 会員、ホームセンター 元園芸講座講師
"	育種・繁殖	大学院博士課程在籍
"	花き輸出入概論	クリザール・ジャパン(株) 副会長
"	食品加工論、加工実習	野菜ソムリエプロ
"	植物販売技術	坂野ガーデンにてバラの育種に従事
"	植物販売技術	ガーデン関連会社 勤務
"	特殊空間緑化	(株) 岩崎電気 勤務
"	特殊空間緑化	(株) 日植ガーデン 勤務
"	グリーンコーディネート実践	ガーデン植栽や園芸教室の指導に従事
"	マーケティング	(有) 河野経営研究所 代表取締役
"	農業簿記	会計事務所勤務
"	植物管理技術	ガーデンセンターでの勤務
"	フラワーデザイン基礎	フラワー装飾技能士1級、職業訓練指導員(フラワー装飾科)
"	フラワーデザイン	埼玉県技能士連合会 会長、黄綬褒章受勲
"	フラワーデザイン	公社) 日本フラワーデザイナー協会 理事長
"	フラワーデザイン	フラワーデザインスクール秋桜花 代表
"	フラワーデザイン	はなのみせ花井生花 代表、職業訓練指導員(フラワー装飾科)
"	フラワーデザイン	公社) 日本フラワーデザイナー協会 名誉本部講師
"	フラワーデザイン	(株) SK 花企画 代表取締役
"	フラワーデザイン	(株) ベル・フルール 代表取締役
"	フラワーデザイン	(株) ユー花園 チーフデザイナー
"	フラワーデザイン	ベリーブーケ 代表
"	ショップビジネス	(株) 日比谷花壇 人事部副部長
"	樹木学、造園管理	樹木医、元板橋区立熱帯環境植物館館長
"	造園基礎	(有) 金子園芸 代表取締役
"	造園施工	(株) 誠和造園 代表取締役
"	造園管理	特殊空間緑化の施工会社での勤務
"	造園材料	造園会社 代表
"	造園設計	造園会社 常務取締役、1級施工管理技士

非常勤講師 または委託	デザイン、(資格) 商品装飾展示技能士	フリーランス (ショップディスプレイ) 、商品装飾展示技能士1級
〃	カラーコーディネート、(資格) 色彩検定	色彩検定1級、日本色彩研究所認定色彩指導者
〃	園芸装飾、(資格) 園芸装飾技能士	おりかさ園芸 代表
〃	グリーンコーディネート	佐野園芸 代表、黄綬褒章受勲、現代の名工
〃	(資格) フラワー装飾技能士	職業訓練指導員 (フラワー装飾科) 、公社) 日本フラワーデザイナー協会名誉本部講師
〃	造園施工、(資格) 造園	1級造園技能士、1級造園施工管理技士、造園会社経営
〃	(資格) NFD	職業訓練指導員 (フラワー装飾科) 、公社) 日本フラワーデザイナー協会本部講師
〃	(資格) リテールマーケティング	リテールマーケティング (販売士) 1級、アップセルビジネス研究所 代表
〃	(資格) POP	日本POPサミット協会副会長、Rプラン 代表
〃	(選択) 花木盆栽	日本盆栽教室連盟 師範
〃	(選択) 生け花	華道小原流師範
〃	(選択) アロマテラピー	香草塾 主宰、アロマセラピスト
〃	(選択) ポタニカルアート	NHK文化センター植物画 講師
〃	(選択) CAD	東京都職業訓練校講師 (CAD) 、PAD 代表
〃	(選択) 写真	カルチャースクールでの講師

## ●教職員研修

### <基本方針>

テクノ・ホルティ園芸専門学校に所属する教職員は常に研鑽を怠らず、学生（もしくは保護者）の夢や希望を叶え、同時に学生に対して社会人・業界人として必要な知識や技能もしくはその素養を与える、さらに関連業界に対して有意な人材を輩出するよう努めなければならない。

### <令和3年度の実績>

令和3年度の実績については、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあったが、感染対策に留意しながら、前年度よりも研修・視察を増やすことができた。

研修日	研修・視察等の内容	実施団体・場所等
5月4日	鉢物新品種、主要生産者の情報収集	鴻巣花き(株)
	切り花新品種、主要生産者の情報収集	大田花き市場
5月20日	ナチュラルガーデンの視察	坂野ガーデン
5月21日	切り花新品種、主要生産者の情報収集	大田花き市場
5月21日	フューネラル装飾の現状と新技術の視察、習得	(株)ユ一花園
6月9日	園芸店におけるマーケティング	トマト園芸
6月23日	特殊空間緑化用植物生産者見学	清水園芸
6月25日	コロナ禍における園芸店の経営	おぎわら植物園
7月3、17、31日	専修学校教員研修会	一社)埼玉県専修学校各種学校協会
7月17日	日本建築・茶室・茶庭見学	護国寺、(株)神通静玩堂
7月17日	花卉懇談会セミナー（オンライン）	花卉懇談会（東京農大）
10月25日	パンジー・ビオラの品種動向	サトウ園芸
11月19日	トキタ種苗株式会社大利根研究農場オープンデー	トキタ種苗(株)
11月24日	コールドチェーンにおける鮮度保持、低温処理の重要性	クリザール・ジャパン(株)
11月27日	墜落制止用器具特別講習会	(一社)労働技能講習協会
12月2日	農業機械実演展示会	埼玉県農業機械化協会
12月18、19日	第59回技能五輪全国大会視察	中央職業能力開発協会
1月	最新のフラワー資材の視察（オンライン）	(株)東京堂
2月4日	竹を利用した空間作り	(一社)日本庭園協会 埼玉支部
2月26日	花卉懇談会フォーラム（オンライン）	花卉懇談会（東京農大）

<令和4年度の計画>

講習会やセミナーの受講、各種の展示会における新品種・新商品等の確認などを通じて、学生へ還元できる知識・技術等を習得する。ただし、令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、講習会やセミナー等が開催中止、オンラインでの実施になることが予想されるが、可能な限り研修が実施できるように努めたい。

研修予定	研修・視察等の内容	実施団体・場所等
5月	マーケティング戦略の実施状況の視察	(株)グリコ 北本工場
5月	鉢物新品種、主要生産者の情報収集	鴻巣花き(株)
5月	切り花新品種、主要生産者の情報収集	大田花き市場
5月	フューネラル装飾(葬儀の花)の現状と新技法の習得・視察	ユーハイム
6月	マーケティング戦略の実施状況の視察	ヨーロッパ野菜研究会
6月	フラワーデザインにおける構成理論	(公社) 日本フラワーデザイナー協会
6月	フラワー業界の現状視察と企業側が求める人材についてのヒアリング	フラワーショップ
7月	専修学校教員研修会（1年次）	(一社)埼玉県専修学校各種学校協会
7月	花卉懇談会セミナー	花卉懇談会（東京農大）
7月	種苗会社の新品種の確認および最新の情報収集	タキイ種苗(株)
10月	園芸・農業・造園資材、新技法等の確認と習得	IFEX、次世代農業・ガーデン EXPO
10月	企業的経営体の野菜経営概要把握	深谷市等
11月	野菜新品種と栽培資材等の新商品の確認	トキタ種苗(株)大利根研究農場
11月	市場からみた花き業界の現状と今後の動向の確認	大田花き市場
11月	技能五輪全国大会視察	幕張メッセ
12月	省力化等の最新農業機械の情報収集	農研機構
2月	花卉懇談会フォーラム	花卉懇談会（東京農大）
2月	花きの新品種・優秀品種の確認、生産技法の習得・情報収集	関東東海花の展覧会
随時	マネージメント／コーチング／カウンセラー講習	埼玉県職業能力開発協会ほか
随時	生産者や生花店、造園会社との積極的な情報交換	—

#### ④ キャリア教育・実践的職業教育

##### ● キャリア教育、就職支援への取組状況

個々の学生の希望を重視した指導とサポートを実施している。

1年次の前期（コースに所属する前）にクラス担任と面談し、その時点の希望等を確認。

1年次の後期からは、コースに分かれ専任教員と面談を重ねる。

過去の求人・就職企業の状況や卒業生・企業から得た情報を正確に伝え、同時にインターンシップを有効に活用することで、本人の希望とのミスマッチを防ぎ、確実な就職へ結び付けられるように指導している。

また、業界の現状や企業側が求める人材などの理解を深められるように、毎年1年次の2月に企業からの職員派遣を得て就職ガイダンスを行っている。

<令和4年2月の実績>

企業名	主な業務内容
小林花卉	カラシコエをはじめとした鉢花、花苗の生産
MIMONO	園芸店、グリーンレンタル、植栽
トキタ種苗(株)	野菜の育種や種苗の生産販売、資材の開発・販売
富士食品工業(株)	キャベツなどの野菜生産
東武緑地(株)	室内園芸装飾、グリーンレンタル、植栽、造園
(株)プロトリーフ	園芸用土の販売、園芸店の運営や造園施工、デザイン
(株)ユ一花園	フューネラル装花、ブライダル装飾、フラワーショップ
(株)花弘	ブライダル装飾、フラワーショップ
作庭志稻田(株)	個人住宅等の造園工事、植栽工事
みつばち造園	個人住宅等の造園工事、植栽工事

さらに、ビジネスマナーの授業において応募書類の作成や面接対策をするのみならず、具体的な活動を始める時点で、書類作成・模擬面接・訪問マナーなどを個別に指導している。

##### ● 実習・実技等の取組状況

本校では、開校当初より実習や演習に重点を置いて、即戦力たる人材養成を図っている。

このために、企業・団体から協力を得て、インターンシップによる現場の経験や、実践的な講師の派遣を受けることで教育効果を高めている。

##### 【企業との連携によるインターンシップ】

<インターンシップの実施時期（各約2週間）>

- ・1年次 11～12月
- ・2年次 5～6月、11～12月

<インターンシップによる利点>

- ・学校で学んだことが実践できると同時に、学校で学べないもしくは学ばないことを経験できる
  - ～ 社会人として働く練習の機会、社会人に必要な事柄を知る機会を提供できる
- ・将来の職場選択に有効
  - ～ どんな職場があるかを知る機会、失敗が少ない就職活動の基礎を提供できる

<主なインターンシップ企業>

(株)日比谷花壇、(株)ユー花園、第一園芸(株)、(株)花弘、(株)花門フラワーゲート、トキタ種苗(株)、  
 (株)ミヨシ、(株)はこねフローリスト、(株)ティクアンドギブ・ニーズ、(株)パークコーポレーション  
 青山フラワーマーケット、(株)ゼントクコーポレーション ブケ・オ！・ブケ、(有)吉田園芸、戸塚園芸、  
 (株)プラネット、(株)ジョイフル本田、片倉工業(株)マルベリーガーデン、富士食品工業(株)、  
 (株)足利フラワーリゾート あしかがフラワーパーク、東部緑地(株)、西武造園(株)、(有)石正園、(有)麻布植祐、  
 (有)蓮や鈴木造園、植彌加藤造園(株)、(株)曾根造園、(株)京都造園 ほか

\*これらの企業以外にもインターンシップの際に学生を送り出している

\*必ずしも毎年、希望者(実習者)がいるとは限らない

\*インターンシップに関する連携の契約書を交わしていない企業も一部掲載している

**【企業との連携によって授業を実施】**

契約を締結して授業への協力を得ている企業 (【 】内は主な授業科目名)

企 業 名	企 業 概 要 (説明)
有限会社東武フラン 東武フローラーデザインアカデミー 【フローラーデザイン実践】	埼玉を拠点にして堅実に生花販売やウェディング装飾を行っている企業。代表は、現代の名工、黄綬褒章を受章。同時に、現在は(一社)全国技能士会連合会理事、(一社)埼玉県技能士会連合会会長などを兼務。精力的に後進の指導を行っている。
株式会社 SK 花企画 【フローラーデザイン実践】	軽井沢を拠点としてホテルウェディングやフラワーショップを運営している企業。代表は長野県・信州の名工、(一社)全国技能士会連合会認定の全技連マイスターを受章。全国のホテル装飾担当者や生花店経営者に精力的に技術指導を行っている。
フローラーデザインスクール 秋桜花 【フローラーデザイン実践】	代表は日本のみならず、中国や韓国など海外においてデモンストレーションやコンテスト出場者の指導を行うと共に、フラワーショップ経営者への技術指導などを精力的に行っている。
株式会社水庭農園 【造園管理】	苗木等の生産からスタートして創業80年超。官公庁、民間企業の庭園・公園・緑地・広場などの造園工事を行っている企業。
佐野園芸 【グリーンコーディネート】	埼玉を拠点として関東一円でインドアガーデンの普及に努めている企業。代表は、現代の名工、黄綬褒章を受章。社員を技能グランプリに出場させるなど後進の指導に熱心のうえ、植物の取扱いや装飾に優れている。
おりかさ園芸 【グリーンコーディネート 実践】	代表は、園芸販売・装飾の企業を経た後に独立。埼玉県インドアグリーン協会教育部長、(一社)日本インドアグリーン協会技能グランプリ競技員であり、植物の生産や取扱い、装飾に優れている。

## ⑤ 様々な教育活動・教育環境

### ●学校行事への取組状況（令和3年度の実績）

令和3年度も令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で短縮授業は行ったが、入学式は予定通り4月に実施し、授業期間も通常の期間で実施することができた。また、文花祭等の学校行事も規模を縮小して行った他、見学は感染対策を徹底しながら例年よりも回数を増やして実施することができた。

<全校的もしくは学年単位での取り組み>

月度	行事	概要
4月	入学式	
5月	母の日販売会	母の日の商品や農場生産物などの販売
8月	夏期農場実習	秋～冬の花や野菜の播種、灌水作業、除草・病害虫防除作業など
9月	鴻巣花き市場見学	流通の要である市場の重要性を理解させる
10月	文花祭	目頃の学習成果を発表する。
2月	卒業・進級作品展	2年間、もしくは1年間の学習成果を発表する。
	就職ガイダンス	1年生を対象に各企業の担当者から就職に関する心構え等の講話
3月	卒業式	

<コースによる見学・視察等>

月度	見学先・イベント名など	概要	対象
4月	花園グリーンセンター	春の園芸シーズンの園芸店の見学	GC
5月	大田市場 花き部（リモート）	国内最大の花き市場の仕組みやセリの状況などを見学	FD
	ユー花園（リモート）	フューネラルフラワーの装飾技法等を見学・確認	FD
6月	トマト園芸	園芸店のマーケティングの視察	FC、VC、GC
	ヨロ研カフェ	さいたまヨーロッパ野菜研究会の取り組みを見学	FC、VC、GC
	おぎわら植物園	コロナ禍での園芸店経営の現状を視察	FC
	日本フラワーデザイナー協会	フラワーデザインのトレンドを学習する	FD
	清水園芸	特殊空間緑化用植物生産者の見学	LA
7月	護国寺と古美術商の見学	日本建築・茶室・茶庭見学	LA
10月	サトウ園芸	パンジー・ビオラの品種動向の視察	FC
11月	トキタ種苗 オープンデー	花・野菜の新品種と生育状況等を見学	VC
	クリザール・ジャパン㈱	コールドチェーンにおける鮮度保持、低温処理の視察	FC
	嵐山渓谷	自然の風景を見学することで作品制作のヒントを得る	GC
1月	東京堂	アーティフィシャルフラワー、ドライフラワーについて	FD
2月	竹を使った空間作り	(一社)日本庭園協会埼玉支部主催の作庭講習会	LA

表の「対象」に記載した記号の説明

FC：花き生産コース

VC：野菜生産コース

GC：グリーンコーディネートコース

FD：フラワーコーディネートコース

LA：造園コース

(次ページに記載の表においても同様)

<コースによる学習成果の発表等>

月度	イベント・施設名など	概要	対象
9月	岩鞍リゾートホテル	館内のフラワー装飾	FD
12月	技能五輪全国大会	フラワー装飾部門の競技会	FD
1月	行田商工センター会議室	ブライダルフラワー装飾の実践	FD
2月	卒業・進級作品展	フラワーデザイン競技会	FD
3月	春期農場実習	農場植物の繁殖・管理作業	FC・VC

<地域との連携によるコースの活動>

月度	施設・行事名など	概要	対象
7月	特別養護老人ホーム	観葉植物などによる館内の装飾：川里苑	GC
11月	特別養護老人ホーム	クリスマス・フラワー装飾：川里苑	FD
12月	埼玉県	小学生対象のフラワーデザイン教室：埼玉県民生活部青少年課	FD
3月	特別養護老人ホーム	花壇植栽：おきな	FC
通年	花手水	毎月2週間、埼玉郵便局、前玉神社にて花手水を作成	FD
通年	ホームセンター	農場生産野菜の販売：カインズホーム	VC

⑥ 学生の生活支援

●学生支援への取組状況

各コースの担当教員が座学や実習などを通じて個々の学生の出席状況や学習意欲などの把握に努めている。同時に、教務担当者が非常勤講師とのやり取りなどによって同様の情報を把握している。これらの情報は、少人数制の利点を生かして教職員間で共有し、同時に定例の教務会議で対策などの意見交換を行っている。

この際、状況によってはコース担当教員から保護者へ連絡し、保護者も交えた面談を実施。学習への取り組み姿勢の更生、不登校・退学の防止に結び付けている。また、保護者からの相談については随時応じることとして、保護者に対するケアも行えるように対応している。

## ⑦ 学生納付金・就学支援

### ●学生納付金の取扱い（令和4年度入学生、金額、納入時期等）

学費（各コース共通）

	1年次			2年次		
	納入方法・期日			納入方法・期日		
	一括納入	分割納入		一括納入	分割納入	
		第1回納入	第2回納入		第1回納入	第2回納入
	合格通知受領から2週間以内	合格通知受領から2週間以内	入学前の 3月31日 (1年次の 7月15日※)	1年次 (2年次直前) 3月31日	1年次 (2年次直前) 3月31日	2年次の 7月15日
入学金	100,000円	100,000円	—	—	—	—
授業料	950,000円	550,000円	400,000円	950,000円	550,000円	400,000円
実験・実習料	100,000円	—	100,000円	100,000円	—	100,000円
合計	1,050,000円		1,150,000円	1,150,000円		1,150,000円

\*入学前の3月31日までに入学辞退を申し出た場合は、納入済みの学費の内、入学金を除いた授業料・実験実習料を返還する。

※分割納入・第2回納入の期日は「分納願」を提出した場合は、7月15日に変更する。

### 諸費用（教材費・教具費・花材費等）

学年	納入時期	花き生産コース	野菜生産コース	グリーンコーディネートコース	フラワーコーディネートコース	造園コース
1年次	5月	160,000円	160,000円	170,000円	220,000円	210,000円
	9月	60,000円	60,000円	80,000円	150,000円	80,000円
	計	220,000円	220,000円	250,000円	370,000円	290,000円
2年次	5月	90,000円	90,000円	100,000円	300,000円	90,000円
	9月	30,000円	30,000円	30,000円	40,000円	60,000円
	計	120,000円	120,000円	130,000円	340,000円	150,000円

\*各コースで徴収している金額のおおよその平均額を表示している。（参考金額としてご覧ください。）

\*それぞれ、必修科目に加えて、選択科目や資格取得科目の教材費等も含めている。

\*資格の検定料などは、個々の受検資格によって異なり、別途実施団体宛に実費を納入しなければならない。

●活用できる経済的支援措置の内容等（令和4年度入学生、奨学金、授業料減免等）

詳しくは、学生募集要項に記載。（2年進級時に適用する「給費生制度」は学生生活の手引きに記載）

<学園独自の制度>

◇特別奨学金（入学時に適用）

奨学区分		給付額	給付条件
資格取得	A	30,000円	園芸装飾技能士2級、フラワー装飾技能士2級、造園技能士2級、商品装飾展示技能士2級、日本農業技術検定1級、測量士補、リテールマーケティング(販売士)1級、NFD(日本フラワーデザイナー協会)フラワーデザイナー2級、カラーコーディネーター1級、色彩検定1級、屋上緑化コーディネーター、簿記実務検定1級(全商)、ビジネス文書実務検定1級(全商)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)・県(都・府)連会長職
	B	10,000円	園芸装飾技能士3級、フラワー装飾技能士3級、造園技能士3級、商品装飾展示技能士3級、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)検定特級、グリーンアドバイザー、NFD(日本フラワーデザイナー協会)フラワーデザイナー3級、リテールマーケティング(販売士)2級、カラーコーディネーター2級、色彩検定2級、日本農業技術検定2級、簿記実務検定2級(全商)、ビジネス文書実務検定2級(全商)、情報処理検定(全商)、ビジネスコミュニケーション検定(全商)
全国大会	入賞	30,000円	技能五輪全国大会入賞(フラワー装飾部門、造園部門)、技能グランプリ入賞(園芸装飾部門、フラワー装飾部門)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)主催の各種競技会において全国大会入賞
	出場	10,000円	技能五輪全国大会出場(フラワー装飾部門、造園部門)、技能グランプリ出場(園芸装飾部門、フラワー装飾部門)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)主催の各種競技会において全国大会出場
AO事前学習	レポート評価	50,000円	6月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
		40,000円	7月エントリー看で、毎月のレポート評価が80点以上
		30,000円	8月エントリー看で、毎月のレポート評価が80点以上
		20,000円	9月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
	園芸常識	50,000円	テスト結果が91~100点
	テスト	30,000円	テスト結果が81~90点

\*該当するものが複数ある場合は、その合算金額を給付する

(ただし、同一資格の上位級を取得している場合の下位級、同一大会で入賞した場合の「出場」は対象外)

◇卒業生紹介制度（入学時に適用）

- ① 兄弟姉妹、保護者が本学の在校生・卒業生の場合：入学金相当額100,000円を奨学金として給付する
- ② 本学卒業生の紹介により入学した場合：50,000円を奨学金として給付する

◇農場奨学生制度（入学年度のみに適用）

入学後に年間50日間の実習農場管理業務全般を行える方に250,000円を奨学金として給付する

(事前に面接を行い、採用の可否を決定する) \*テクノ・ホルティ園芸専門学校（埼玉校）希望者

#### ◇給費生制度（2年進級時に適用）

人物・学業共に優秀で目的意識の確かなものに対して、経済的な負担を軽減するために奨学金を給付する「給費生制度」を設けている。

ただし、給付希望する場合は別途試験（専門科目、一般常識）を受け、認定されなければならない。

給付金額 A認定 50万円、B認定 25万円、C認定 10万円、D認定 5万円

#### ＜公的な奨学金、給付金など＞

##### ◇農業次世代人材投資事業（準備型）：農林水産省・全国農業会議所

次世代を担う農業者となることを志向する45歳未満の者に対して、就農前の研修を後押しする資金が交付される制度

- ・対象学生 花き生産コース／野菜生産コース
- ・交付決定 事前に研修計画等を作成し、担当官（外部）との面接に通ることが必要
- ・交付金額 最大150万円／年
- ・その他 一定の条件を満たせば返還不要

\*詳しくは、農林水産省のホームページを参照

[http://www.maff.go.jp/j/new\\_farmer/n\\_syunou/roudou.html](http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/n_syunou/roudou.html)

##### ◇日本学生支援機構の奨学金

学業成績が優秀で、かつ経済的な理由から学費の支払いが困難な者に対して、選考のうえ奨学金が貸与される制度（卒業後に返還が必要）

- ・第一種奨学金（無利子）
- ・第二種奨学金（有利子）
- ・入学時特別増額貸与奨学金（有利子）

また、給付型（返還不要）の制度も設けられている

\*いずれも必要な事務作業等は学内で指導する

\*詳しくは、日本学生支援機構のホームページを参照 <https://www.jasso.go.jp/>

##### ◇高等教育の修学支援新制度

住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯の学生が対象で、世帯収入などにより判定される適用区分によって、入学金および授業料が減免される他、日本学生支援機構の給付型奨学金も支給される制度

\*いずれも必要な事務作業等は学内で指導する

\*詳しくは、文部科学省ホームページ「高等教育の修学支援新制度」を参照

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/hutankeigen/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm)

その他、上記を含め詳しくは募集要項および関係する組織・団体のホームページを参照のこと

#### ⑧ 学校の財務

- 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表は、情報公開ページを参照してください。

#### ⑨ 学校評価

- 自己評価、学校関係者評価を踏まえた改善方策については、情報公開ページを参照してください。

## ⑩ その他

### ●学則（令和4年度）

**ダクノ・ホルティ園芸専門学校休業日則**

#### 第1章 総 論

##### (目的)

第1条 本校は、学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、園芸に関する専門技術及び知識を習得させ、あわせて一般教養の向上を図ることを目的とする。

##### (名 称)

第2条 本校は、ダクノ・ホルティ園芸専門学校といふ。

##### (位 置)

第3条 本校は、埼玉県行田市大字扇木白原通4758番1に置く。

#### 第2章 課程及び学科、修業年限、定員並びに休業日等

##### (課程、学科、修業年限並びに定員等)

第4条 本校の課程、学科及び修業年限並びに定員は次のとおりとする。

課程名	学 科 名	修業年限	入学定員	学科定員	総 定 員	備 考
専門課程	園芸1類学科	2年	80名	160名	160名	

2. 本校の別科は、次のとおりとする。

科 名	修業期間	総 定 員	備 考
研究科	1年	80名	

#### (学年及び学期)

第5条 本校の学年は、4月1日が始まり翌年3月31日で終わる。

2. 専門課程の学期は次のとおりとする。

前 半 4月1日から9月30日まで

後 半 10月1日から3月31日まで

#### (休業日)

第6条 本校の休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律で休日とされる日

(3) 夏季休業日 8月 1日から8月31日まで

(4) 冬季休業日 12月15日から1月14日まで

(5) 春季休業日 3月26日から4月 7日まで

(6) 開校記念日 10月 1日

(7) 埼玉県民の日 11月 14日

#### 第3章 教育課程及び授業時数及び職員組織

##### (教育課程及び授業時数)

第7条 本校の教育課程及び卒業に必要な総授業時数は、別表1-1から1-5のとおりとする。

##### (就業及び修業の時刻)

第8条 本校の就業及び修業の時刻は、次のとおりとする。

(1) 専門課程は、9時から17時までとする。

(2) 別科は、9時から17時までとする。

##### (職員組織)

第9条 本校に、次の教職員を置く。

(1) 校 長 1名

(2) 教 員 6名以上

(3) 事務職員 1名以上

2. 校長は、教務をつかさどり、所属職員を監督する。

#### 第4章 入学、休学、退学並びに単位の認定、卒業及び賞罰

##### (入学資格)

第10条 本校の入学資格は、次のとおりとする。

専門課程は、高等学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところによりこれに準ずる学力があると認められた者とする。

##### (入学時期)

第11条 本校の入学時期は、次のとおりとする。

専門課程は毎年4月とする。

##### (入学手続)

第12条 本校の入学手続は、次のとおりとする。

- (1) 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書に必要事項を記載して、第19条に定める入学検定料を添えて指定期までに提出しなければならない。
- (2) 前号の手続を終了した者に対して選考を行い、校長が入学を許可する。
- (3) 本校に入学を許可された者は、入学許可の日から1週間以内に第19条の入学金を納め手続をとらなければならない。

##### (休業及び復学)

第13条 学生が、疾病その他のやむを得ない事由により、30日以上休業する場合は、診断書及びその事由を記し、校長の許可を受けなければならぬ。

2. 前項の者が復学しようとする場合は、届け出て復学することができる。

##### (退 学)

第14条 退学しようとする者は、その事由を記し、校長の許可を受けなければならぬ。

##### (学習の評価、単位の認定)

第15条 学習の評価は試験により行う。

2. 評価した授業科目の出席時数が授業時数の三分の二以上あり、試験の結果が合格の場合には、当該授業科目の単位を認定する。

3. 卒業に必要な全科目の単位を修得した者については卒業を認定する。

4. 検査方法、学習の評価、評定、単位の認定に關し必要な事項は別に定める。

#### (卒 業)

第16条 本校所定の課程を修了した者には、学習評価のうえ卒業証書(別紙様式)を授与する。

##### (褒 賞)

第17条 成績優秀にして、他の模範となる者は、これを褒賞することがある。

##### (懲 戒)

第18条 次の各号の一に該当する者には、退学を命ずることがある。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 力学劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正當な理由がなくして出席席でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他のとしての本分に反した者

(人学金及び授業料、奨学金等)

第19条 本校の入學金、授業料等は、別表2のとおりとする。

2. 授業料は、出席の有無にかかわらず、所定の期日までに納入しなければならない。但し、事情により分納を認めることがある。

3. 入學前に前納された入學金、授業料、実験・実習料は、入學年の4月1日以降は返還しない。但し、入學年の3月31日までに入学辞退を申し出た場合は、原則として入學金を除く全額を返還する。

4. 本校では、学習者の経済的な負担軽減を図るために別表3の奨学金制度・学費削減措置制度を設けることとする。

##### (寄 貸)

第20条 寄貸金に関する事項は、校長が別に細則で定める。

##### (健康診断)

第21条 健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより実施する。

#### 附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

#### 附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

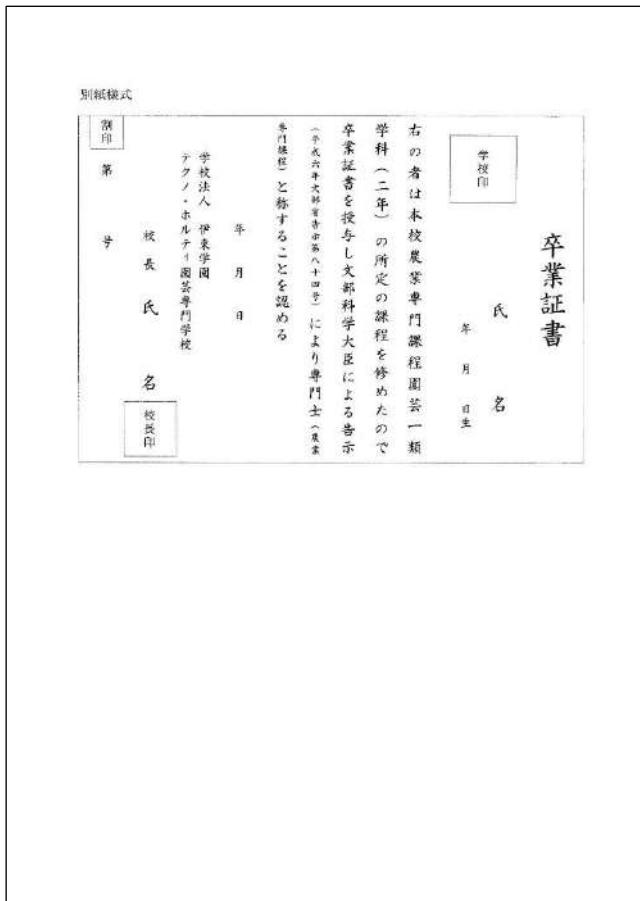
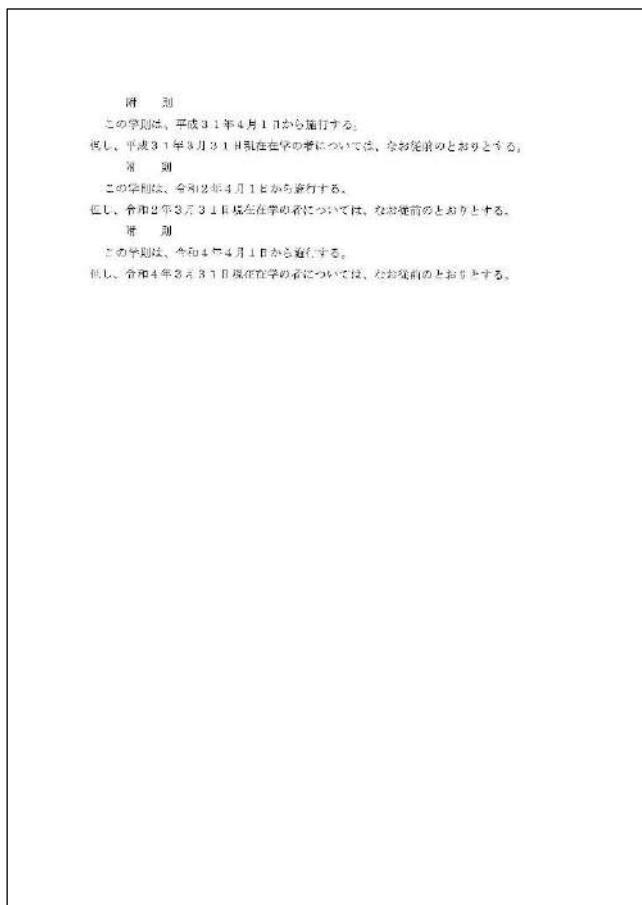
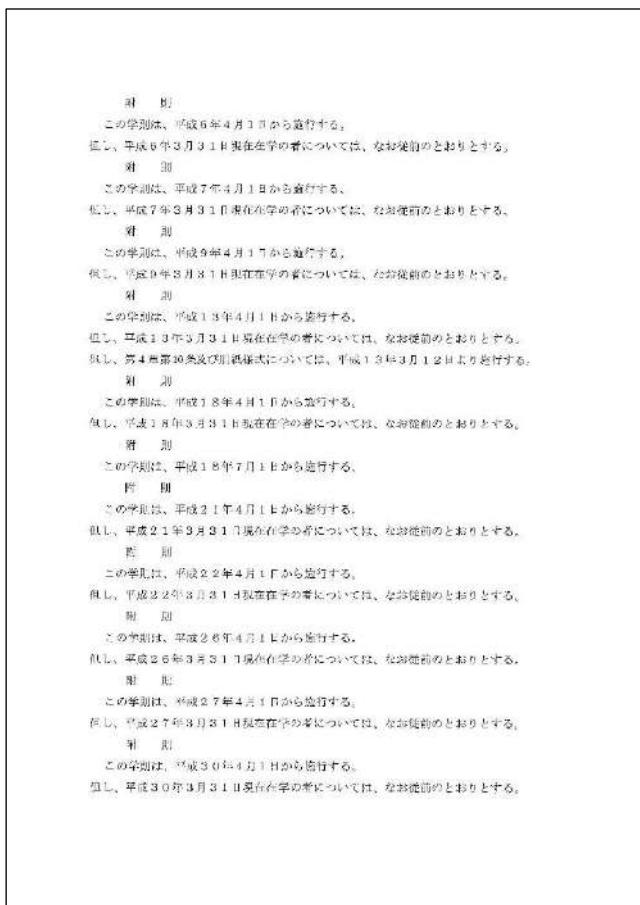
#### 附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

#### 附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

但し、平成1年3月31日現在在学の者については、なお従前のとおりとする。



別紙様式		卒業証書		別表1 開学科教育課程 各き生産ユース					
署印	第	校長氏名	年月日	氏名	年月日	時数	1年	2年	計
						科	目	科	目
学校法人 テクノ・ホールディングス 伊東学園 芸術専門学校	年 月 日	右の者は本校農業専門課程園芸 学科(二年)の所定の課程を修めたので 卒業証書を授与し文部科学大臣による告示 (チラシ等をも含む)により専門士(農芸) と称することを認める	年 月 日	名	年 月 日	園芸文化論	30	30	30
						花と緑の商品知識Ⅰ	60	60	60
						花と緑の商品知識Ⅱ	30	30	30
						分野・植物学	15	15	15
						分類・形態各論	15	15	15
						土壤肥料各論	15	15	15
						土壌肥料各論	15	15	15
						病害虫害防除	15	15	15
						植物生物学	15	15	15
						園芸実習Ⅰ	120	120	120
						園芸実習Ⅱ	30	30	30
						育種・選育	30	30	30
						グリーンコーディネート	30	30	30
						ビジネスマーク	45	45	45
						園芸流通	30	30	30
						デザイン	30	30	30
						フラワーデザイン基礎	30	30	30
						スカラーシティノート	15	15	15
						造園基礎	30	30	30
						花き生産技術Ⅰ	60	60	60
						花き生産技術Ⅱ	60	60	60
						花き生産技術Ⅲ	240	240	240
						商品制作Ⅰ	15	15	15
						商品制作Ⅱ	30	30	30
						生産履歴(流通)	30	30	30
						生産履歴(流通)	60	60	60
						施設管理Ⅰ	15	15	15
						施設管理Ⅱ	30	30	30
						マーケティングⅠ	30	30	30
						マーケティングⅡ	30	30	30
						農業簿記Ⅰ	30	30	30
						農業簿記Ⅱ	30	30	30
						花き輸出入実務	30	30	30
						生産研究	180	180	180
						インターナショナル	60	60	60
						国際実習	60	60	60
						国内行事	120	120	120
						小計	1080	1080	2160
						遊説	30	30	60
						販路開拓	120	120	240
						小計	150	150	300
						合計	1230	1230	2460

\*選択科目(選択・資格取得)は、小計欄の所近以下の科目を選択することができる。



別表2

課程	専門課程
料	開講1類学科
昼・夜の別	昼
入学検定料	20,000円
入学金	100,000円
計	120,000円
授業料	950,000円
実験実習料	100,000円
計	1,050,000円

別表3

制度名	給付額	備考
特別奨学生制度	10,000円 ～ 50,000円	取得資格状況やコレゲスト出席等の状況などに応じて給付する
卒業生紹介制度	100,000円 または 50,000円	本学卒業生の親族または、本学卒業生の紹介によって入学した者に給付する
農場奨学生制度	上限 250,000円	実習農場の管理会社を行う者に給付する

以上